

## 電事連会長 定例会見要旨

(2015年3月20日)

電事連会長の八木でございます。よろしくお願ひいたします。本日は3点、「今冬の電力需給」、「原子力発電所の運転期間延長判断」、エネルギーミックス策定に向けた「発電コスト議論」について申し上げます。

なお、今月11日で、東日本大震災から4年となりました。福島第一原子力発電所の事故により、今なお、多くの皆さまに多大なるご迷惑とご心配、ご負担をお掛けしておりますことを、同じ電気事業に携わる者として、大変申し訳なく思っております。

福島の復興につきましては、国の方針のもと、一步一步取り組みが進められているところでございますが、私どもといたしましても、更なる復興の進展を切に願うとともに、着実な廃炉作業の進捗に向け、業界全体で支援してまいりたいと考えております。

### 1. 「今冬の電力需給」

それでは、本日の1点目、「今冬の電力需給」について申し上げます。今冬も、3月31日までの期間、沖縄を除く全国において、無理のない範囲での節電にご協力をいただいております。皆さまにご不便をおかけいたしておりますことを、深くお詫び申し上げますとともに、ご協力に対しまして、心より御礼申し上げます。

それでは、お配りしております[資料](#)をご覧くださいと思います。まず、気温の状況ですが、資料の左上にありますとおり、12月は前年に比べて低い日が多かったものの、冬本番を迎える1月から2月にかけては、高めに推移いたしました。こうした中、10社合成の最大電力は、左下のグラフにございますが、12月17日の1億4,795万kWで、昨年と比べ139万kW、0.9%の減となりました。これに対する供給力は、資料の右上

にございますが、1億6,078万kWで、使用率は92%となりました。

このように、今冬は、気温影響などにより電力需要が減少する中、各社における最大限の供給力の積み増し努力と、何よりも皆さまの節電のご協力によりまして、何とか安定供給を維持することができました。しかしながら、高経年のプラントも含めまして、火力発電をフル活用する綱渡りの供給態勢が続いており、課題を抱えた状態に依然変わりはありません。

今後まもなく、国において、夏に向けた需給検証も開始されることになると思います。私どもといたしましては、引き続き、需給両面において最大限の取り組みを進めてまいります。持続可能な安定供給を確保するためには、やはり原子力発電が再稼働し、一定の役割を果たしていくことが、是非とも必要であると考えております。

## 2. 「原子力発電所の運転期間延長判断」

次に、原子力発電所の「運転期間延長判断」について申し上げます。今年の4月から7月に、運転期間延長認可申請をする必要がある7基につきましては、昨年、経済産業大臣から、判断のご指示をいただいておりますが、ご案内の通り、今週、関係各社において検討結果を公表し、昨日は、大臣にもご報告させていただきました。

具体的には、関西電力・美浜発電所1・2号機、中国電力・島根原子力発電所1号機、九州電力・玄海原子力発電所1号機、日本原電・敦賀発電所1号機の5基につきましては、廃炉の判断をいたしました。このたびの検討にあたりましては、各社において、新規制基準への対応状況や、需要動向を踏まえた供給力確保の観点、さらには、廃炉を円滑に推進するための今般の会計制度の見直しなどを総合的に勘案し、判断させていただいたものでございます。残る関西電力高浜発電所1・2号機につきましては、運

転期間延長申請に必要な特別点検を行っておりますので、その結果を踏まえて、判断することとしております。

なお、今回、廃炉の判断をさせていただきましたが、地元の皆さまには、建設当初から長期に亘り事業運営にご理解とご協力をいただいておりますことに、改めて感謝を申し上げます。立地地域の皆さまからは、原子力小委員会などの場で、地元経済や雇用、財政対策などにつきましてご要望がなされておりますが、こうした点につきましては、廃炉を安全かつ円滑に進めていくためにも大変重要なものと考えております。国におかれましては、引き続き、ご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

私どもといたしましても、長期間にわたる廃炉作業を安全に、そして着実に進めていけるよう、しっかりと対応してまいり所存でございます。

### 3. 「発電コスト議論」

最後に、エネルギーミックス策定に向けた「発電コスト議論」について申し上げます。エネルギーミックスの策定につきましては、小委員会での議論が精力的に行われておりますが、重要な検討要素となる電源別の発電コスト検証も、併せて進められているところでございます。

前回、2011年に行われた検証では、直接的な発電コストに加えまして、幅広く社会が負担する社会的費用も含めてコスト試算が行われましたが、電源間の公平な扱いなどにおいて、様々な議論があったものと記憶しております。今回の検証におきましても、例えば、再生可能エネルギー導入拡大に伴って増加する系統安定化費用や火力発電の稼働率低下による影響をどう考えるか、化石燃料価格の見通しやCO<sub>2</sub>対策コストの扱いをどのように見積もるか、さらには、原子力発電につきましても、追加安全対策費用を上乗せする一方で、事故発生確率やリスク費用をどのように設定するかなど、検証すべきポイントは多岐にわたるものと考えております。

コストは、申し上げるまでもなく、S+3Eの重要な要素のひとつでございます。今回の検証にあたりましては、今申し上げましたような論点も含めまして、各電源の特性や果たす役割を客観的かつ公平に、そして分かりやすくお示しいただき、現実的でバランスのあるエネルギーミックスの策定につながるよう、幅広い観点からご議論をお願いしたいと考えております。

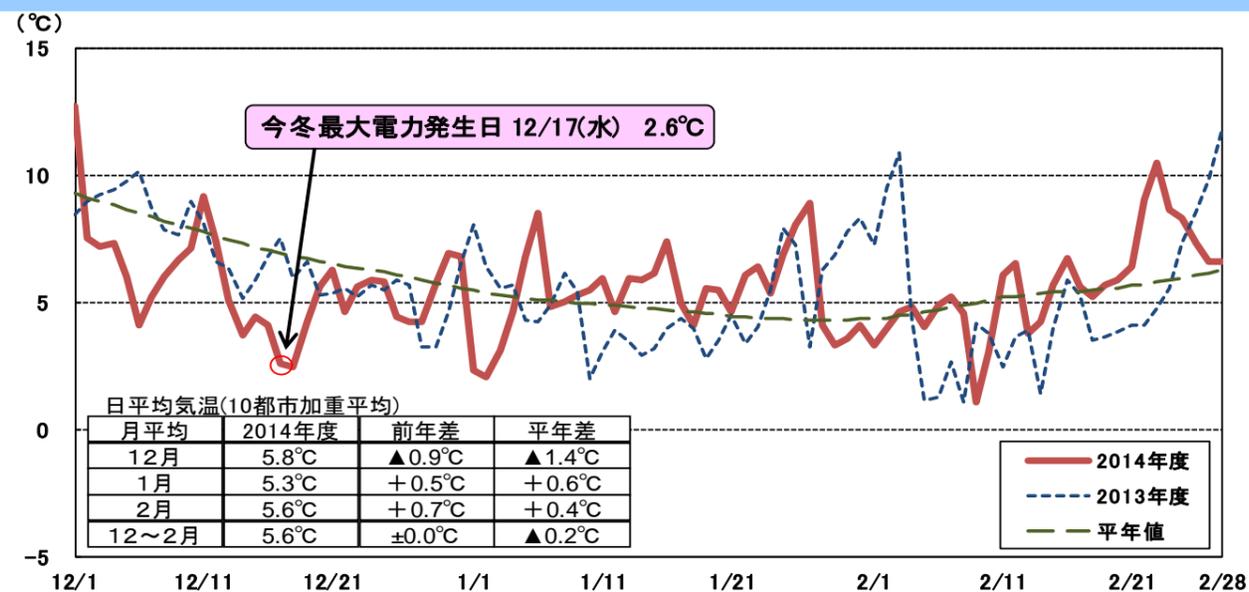
本日、私からは以上です。

以 上

## 今冬（12月～2月）の電力需給について

### 1. 気温状況（12月～2月）

- 12月の日平均気温（10都市加重平均）は、前年に比べて低めに推移（▲0.9℃）した一方で、1月から2月にかけては、前年に比べて気温が高い日が続いた（1月+0.5℃、2月+0.7℃）。

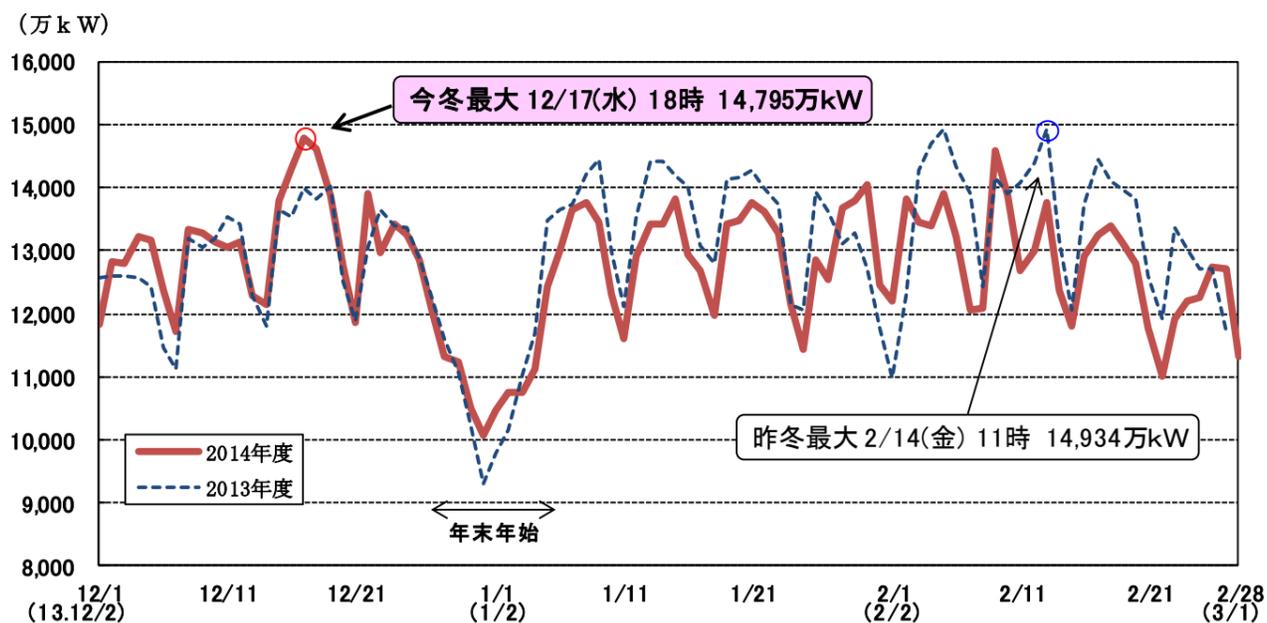


### 2. 10社合成最大電力実績（12月～2月）

- 10社合成最大電力は、12/17（水）の18時に発生した1億4,795万kWで、対前年度比▲139万kW（▲0.9%）であった。

【参考】冬期の過去最大電力：1億5,910万kW 2008年2月13日19時

- 最大電力が発生した12/17（水）の日平均気温（10都市加重平均）は2.6℃であり、前年度の最大電力発生日（1.6℃）と比べると+1.0℃であった。



### 3. 需給バランスと各社実績

- 10社合成最大電力発生時の供給力は、1億6,078万kWで、使用率は92%であった。
- 地域別では、東3社の合成最大電力は、12/16（火）の18時に発生した6,461万kWで、供給力7,060万kWに対する使用率は92%であった。  
中西6社の合成最大電力は、12/17（水）の18時に発生した8,313万kWで、供給力8,840万kWに対する使用率は94%であった。

(単位: 万kW、%)

会社名	最大電力	供給力	使用率	発生日時		最大電力前年度比
10社合成	14,795	16,078	92	12/17	18時	99.1
東3社合成	6,461	7,060	92	12/16	18時	95.2
中西6社合成	8,313	8,840	94	12/17	18時	101.2
北海道	534	635	84	12/16	17時	98.9
東北	1,396	1,530	91	12/17	18時	100.0
東京	4,667	5,352	87	2/5	18時	94.4
中部	2,324	2,606	89	12/18	11時	98.3
北陸	526	561	94	12/17	18時	101.9
関西	2,484	2,622	94	12/17	18時	98.5
中国	1,058	1,115	94	12/17	18時	101.8
四国	503	535	94	12/17	18時	103.3
九州	1,466	1,588	92	12/17	19時	101.9
沖縄	114	160	71	2/9	20時	105.1

(注) 各社の使用率は端数処理の関係により、最大電力/供給力と一致しない場合がある。

### <参考> 10社合成最大電力の推移

